

ホクトヤンマー株式会社

北海道農業の発展とともに

今回はホクトヤンマー株式会社の杉山取締役営業本部長に会社の紹介をお願いしました。

はじめに

当社は、「限らない未来と可能性を持つ大地」である北海道をエリアとする「ヤン坊・マー坊」で馴染みの深い大阪のヤンマー(株)の農業機械ディーラー(販売会社)として、北海道農業の発展とともに歩んでいる会社です。

事業内容は、農業機械の販売・修理のほか、牛舎や格納庫等の農業施設の建設、太陽光発電の機器などを扱っており、平成二



本社屋



販売エリアと拠点

四(二〇一三)年度の売上高二億九億円、従業員数四四三名、支店数は、昨年、幕別町に新規開店し、三五支店となっています。

沿革

昭和四一(一九六六)年に道央圏を営業エリアとする「札幌ヤンマー販売会社」として設立され、当時、道内各地に多数あつ

た系列販売会社や特約店などとの統合・合併を進め、昭和五〇年代前半には全道一円を網羅する販売会社になっております。

平成二（一九九〇）年に、「北斗七星」の如く北の大地で光り輝き、北海道農業の道しるべとして、社会貢献を果たしていきたいとの思いなどから、現在の「ホクトヤンマー株式会社」に社名変更しております。

ホクトヤンマー本社の概要

平成九（一九九七）年に、それまでJRR札幌駅前の東急百貨店の西隣のビルにあった本社を現在ある江別工業団地に移転しております。

全体で約六万㎡（一万八千坪）の広大な敷地を有し、本社社屋、大型農機センター、製品倉庫、北海道流通センター、江別支店店舗などの大型施設用地に約二万六千㎡（八千坪）、主に社員の機械研修などに使われる実演圃場が約三万三千㎡（一万坪）と、農業機械の販売会社としては国内最大級の総合農機センターとなっております。



ジョンディアトラクターの組立

大型農機センターでは、ヤンマーが昭和四七（一九七二）年から輸入代理店となっているジョンディア製品を苫小牧港に陸揚げし、当センターで、国内の基準に沿うよう部品（テールランプ、バックミラー等）を交換・点検し、道内はもとより全国に配送しています。

また、北海道流通センターは、全国に六つあるヤンマーやジョンディアの部品の配送センターの一つで、コンピューター管理により、全道の支店に対し注文を受けた日

の翌日には到着するサービス体制を組んでいます。

これら施設には、毎年、道内の農業者を主体に見学来訪し、昨年度は一、六〇〇名程度の方々が、農業機械の見学や農作業の安全に向けた研修などを受けて頂いています。

徹底した社員教育

当社は農機販売会社であり、農業者との関わりが深いことは当然ですが、採用される社員は、必ずしも農業関係の学校の卒業生ばかりではないことから、新規採用者に対しては、本社で二カ月かけて社会人としての心得はもとより、農業や農機に関する基本的知識の習得、農機やフォークリフトなどの取扱いや修理実習などの新人教育に力を注いでいます。

また、一般社員に対しては、ヤンマー独自の規定に基づき、学科や実技試験による厚生労働大臣認定のヤンマー整備士（一級、二級、三級）、大型整備士、大型販売士と

いった資格を取得してもらうほか、北海道農機整備技術者養成協会主催の技能検定の受験や各種技術研修を実施するなど、農業者の多様なニーズに的確に応えられるよう社員教育の充実に努めております。

北海道農業との関係

当社が創業を発足した昭和四一年は、当時、若者を中心にエレキブームに沸いており、その代表格である「ビートルズ」が初来日した年です。

当時、未だ戦争の傷跡が癒えたとはいえない状況で、食糧の確保のため、食料増産が叫ばれていた時代でしたが、田畑では、農耕馬が活躍しており、ようやく二〇馬力程度の乗用トラクターを売り出して間もない頃で、農機関係の販売は、耕うん機、水揚げ・脱穀用の発動機が主力でした。

その後まもなく、歩行用稲刈取機（バイナダ）やコンバイン、田植機などが続々開発実用化され、第二次農業構造改善事業などの国の施策とも相まって驚異的なスピー

ドで農業機械が普及し、農業の近代化が進んでいきました。

昭和四一年の北海道の販売農家数は、現在（平成二二年）の三・四倍の約一五万戸、一戸当たり耕地面積は、現在の約1/4の六・四haで、農業就業人口も現在の約四倍の四七万五千人でありました。

作物の作付けでは、水稲が現在の二・一倍の二万七千ha、小麦が現在の1/10の一萬一千ha、馬鈴しょが現在の一・五倍の八万ha、小豆が現在の二・五倍の五萬九千ha、いんげんが現在の九・四倍の八萬三千ha、牧草が現在の2/5程度の二萬三千haなどとなっています。

北海道農業は、昭和四五年からの米の本格的な生産調整以降、稲作地域における畑作物や野菜などの園芸作物の導入により作物の作付面積も大きく変動し、担い手の減少に伴い経営規模も急速に拡大してきました。

こうした状況や密植栽培など品質向上のための栽培技術の変化など、時代の動きにも対応して、農業機械も、大型化、高度化

・効率化が図られるとともに、安全フレームやキャビン化が進むなど安全性や労働衛生、居住性なども改善され、北海道農業の発展にとって農業機械の役割は非常に高いものがあります。

近年では、開発が難しかった野菜関係の移植や収穫機が続々開発され（最近ではとうもろこしやキャベツ等の収穫機）、生産者の労力の軽減と野菜の作付けの拡大に貢献しております。

ヤンマー株式会社について

親会社であるヤンマー(株)は、創業者である山岡孫吉が、昭和五（一九三〇）年にドイツで発明されたディーゼルエンジンの小型化に成功し、これを基に農業機械や漁船のエンジンの販売を主力として発展してきた会社であり、グループ全体での平成二四（二〇一二）年度の売上高は、約五、八〇〇億円、職員数では、約一萬六千人となっています。

ヤンマーの名称は、トンボの中でも大型

のオニヤンマから由来したもので、昨年、創業一〇〇周年を迎えたところだ。

これまで、創業者の精神「美しき世界は感謝の心から」をモットーに成長してきましたが、ヤンマーグループが世の中に存在する意義、社会的使命を表すための

「ミッションステートメント」を今年定め
ております。

ホクトヤンマーにおいてもグループ会社として、毎日の朝礼時には、社員一同で唱和しています。

ヤンマー株式会社 の動き

一〇〇年を迎えたヤンマー(株)では、次の一〇〇年を見据え、「プレミアムブランド」として、「かつこいい」「快適」などを切り口に、ハンドルやボンネット、ホイー

わたしたちは
自然と共生し
いのち
生命の根幹を担う
食料生産とエネルギー変換の分野で
お客様の課題を解決し
未来につながる社会と
より豊かな暮らしを実現します。

ヤンマーグループ ミッションステートメント



ヤンマーコンセプト：トラクター



ヤンマーコンセプト：農業ウェア

ルなどのデザインを刷新し、キャビンの居住性の充実などを図るとともに、無人走行の機能を備え、二台で耕うんと作付けなど二作業を一人で同時にできるロボットトラクターなどを開発することになっています。

また、我が国農機業界初のサービスとして、道内で導入が盛んなGPS（衛星利用測位システム）を活用した農業機械の位置情報や稼働状況などを発信する「スマートアシスト」を、今年度から一部稼働しており、圃場ごとの栽培履歴や圃場マップ핑グ、生産コストの算出など、提供できる情報の充実に努めているところです。

さらに、東京、大阪、名古屋などの消費圏の大手スーパーやドラッグストアーなどの流通業界に対し、馬鈴しよ、トマト、たまねぎなどの野菜を主体に、全国の生産者と連携して、リレー出荷する「販路マッチング」を行うことしております。

ホクトヤンマーの方向性

北海道農業の発展とともに歩んできた当社において、これまでと同様、生産者の農業機械に対する多様なニーズに応えること

はもとより、こうしたヤンマー(株)の動きにも呼応して、生産者にとって有意義と思われる取組について案内や提案をするなど、今後とも、北海道農業の発展になお一層貢献して参りたいと考えています。

SMARTASSIST

ヤンマーの新システムで 農作業を強力にサポート。 安定稼働はもちろん営農支援まで、 これからの新しい農業のカタチを 提供します。

スマートアシスト 5つのポイント	3 異常発生通知サービス 万一のトラブルによる マシンドアウンを軽減します。
1 稼働状況管理サービス 現場で働く農業機械の位置と コンディションを見守ります。	4 作業改善 燃費改善や能率向上につながる 作業履歴情報を提供します。
2 保守管理サービス 使用状況に合わせた最適なタイミングで メンテナンスを提案します。	5 盗難対策 設定したエリア・時間外で 稼働した場合、自動で通知します。

スマートアシストの概念